第6回 恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会理事会（会議録）

会議の名称 第6回恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会理事会
開催日時 令和6年7月2日（火） 午後7時00分から
開催場所 岩村コミュニティセンター 2階 大会議室
議題 (1) 課題 No. 1 新中学校の名称について（総務部会）
(2) 課題 No. 9 校舎の増築、改修に関する事（環境部会）
(3) 課題 No. 21 学校図書に関する事（教育部会）

公開非公開の別 公開

出席者

委員

瀬瀬 佳恭

山田 英明

原田 英明

若森 慶隆

杉山 淳

平林 道博

安藤 常雄

市岡 信宏

岡庭 寿則

小木曾 美香 (Zoom)

中垣 野歩

萩山 勝 (Zoom)

後藤 琢磨

成瀬 久志

長谷川 一行

園原 正明

堀 雄二

小笹 寿里

宮地 喜義

教育委員会

岡田 庄二 工藤 博也 鈴村 幸宣 丸山 頼彦

瀬瀬 千尋 青木 茂 郷田 賢 古川 暉久

市川 太一 志津 博光 小野 千恵実 長谷川 椋

会議の内容 会議録のとおり

事務局 皆様、こんばんは。本日は大変お忙しい中、また、お仕事等でお疲れの中お集まりいただき、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまより第6回恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会理事会を開会します。

私は、本日の司会を務めます教育委員会学校統合準備室の瀬瀬と申します。よろしく願いをいたします。

まず、皆様、資料の確認をお願いしたいと思います。これはリンクをしておりますけれども、レジュメが1枚、そして、第6回恵那南地区統合中学校準備委員会という少し厚めのもの、そして、差し替えですが、A3の左のほうに「配置図」と書いてある図面等がありますけれども、これはお配りしたものと差し替えていただいて、今日お配りしたもの、こちらのほうを会議では使いますので、よろしく願いをいたします。そして、第5回理事会の会議録のほうなんですけれども、こちら参考までにしていただきたいと思います。もう一つ、最後ですが、理事会の名簿のほうを本日は皆様のほうにお配りさせていただいておりますので、よろしく願いをいたします。

この会議につきましては、準備委員会設置要綱第7条第9項により、理事の半数以上の出席が本日ございますので、成立していることを報告させていただきます。なお、出席の連絡については、2名から欠席の連絡を受けております。なお、2名がZoom参加しておりますので、よろしく願いをいたします。なお、教育長でございますが、今、他の公務に出ておりまして、その公務が終わり次第出席いたしますので、よろしく願いをいたします。

今年度最初の理事会ということもございまして、理事の変更もあったため、1人ずつご紹介いただくのが本意ではございますが、本日はお手元に理事会名簿を配付しておりますので、書面にて代えさせていただきますので、よろしく願いをいたします。そして、この準備委員会のアドバイザーであります岐阜聖徳学園教授の福地先生につきましては、本日、所用により出席できない旨の連絡を頂いておりますので、併せてよろしく願いをいたします。

それでは、次第に沿って進めていきますので、円滑な会議の進行にご協力をお願いいたします。

初めに、理事長より開会に当たっての挨拶を頂くところですが、本日、西尾理事長は怪我により欠席のため、杉山副理事長よりご挨拶を申し上げます。よろしく願いをいたします。

副理事長 皆様、こんばんは。副理事長の杉山です。西尾理事長が欠席のため、代理を務めさせていただきます。

本日の理事会は、課題について専門部会で議論し、案として取りまとめられた、6月27日に開催の第3回幹事会で審議・調整された3つの課題事項について審議を頂きます。理事の皆様の活発なご意見を頂ければと思います。

手短ですが、以上をもって挨拶とさせていただきます。よろしく願いをいたします。

事務局 ありがとうございます。

では、ここからは議事に入ります。

ここからの議事は、準備委員会設置要綱第7条第6項の規定により理事長が務めることとなりますが、本日は理事長が不在ため、同要綱第7条第7項の規定により副理事長に進めていただきます。

それでは、杉山副理事長のほうで議事進行をお願いいたします。

副理事長 それでは、2番の報告です。

審議に入りますので、最初の報告として、専門部会等の審議状況を事務局から説明をお願いいたします。

事務局 事務局の古川です。よろしくをお願いいたします。

すいませんが、着座にて説明させていただきます。

すいません、今年度最初の理事会となりますので、まず簡単にこの理事会、準備委員会の中の理事会という組織について簡単におさらいをさせていただきたいと思います。

準備委員会の中には、大きくこの理事会、あと幹事会、3つの専門部会というものが存在します。3つの専門部会においてそれぞれ受け持たれている課題、学校統合に関わる課題、23項目の課題をそれぞれの3つの部会で検討していただいております。検討していただいた結果をまずは幹事会のほうに上げます。幹事会のほうで調整していただき、承認していただいたものが、今度、理事会のほうに上がっていきます。

設置要綱の第7条において、理事会については、「委員会において次に掲げる事項を検討し、及び決定するために理事会を置く」ということで、理事会のほうで決定をされるということになります。決定する項目については、第7条第1項第1号から7号に関わるもの、つまり、これが先ほどの課題、各部会で話し合う課題について上がってきたものを理事会で決定するという組織になっております。また、こちらで決定された事項につきましては、総会のほうを行い、総会で承認をされて、教育委員会のほうに提言がなされていくという流れになっていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、前回の理事会以降の審議状況について簡単に説明させていただきます。

前回の理事会は3月29日に開催しております。第5回の理事会になっております。新中学校の名称、スクールバスの運行、部活動等について協議を頂いております。その後、この協議いただいた内容について、第2回の総会を5月20日に行い、部活動交流事業等について報告をさせていただいております。その後、5月20日の日に総務部会、環境部会、教育部会、それぞれ分かれて昨年度の振り返り、今年度決めていくことなどを確認していただいております。

6月6日に総務部会が行われ、主に新中学校の名称について協議が行われております。6月18日には教育部会のほうが行われ、学校図書館のデザイン等について確認が行われております。6月20日には環境部会が開かれて、校舎の増築・改修について検討されております。

先日、6月27日、第3回目の幹事会が行われました。それぞれの部会で話し合われた新中学校の名称、校舎の増築・改修、学校図書館のデザイン等につい

て承認を頂いたところになります。この幹事会を受けて今日の理事会となっておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上になります。

副理事長 ありがとうございます。ただいまの事務局からの説明に対してご質問等がございますか。よろしいですか。――質問等がないようですので、次の議題に入ります。

3番議題、(1)課題 No. 1、新中学校の名称について、総務部会から説明をお願いいたします。

総務部会長 総務部会長の原田でございます。細かな数字等は後ほど事務局から説明していただきますが、全体の流れを、どういう感じで学校の名称を検討したかについて説明させていただきます。

今年の4月1日から5月10日にかけて、新中学校の名称を公募いたしました。そのアンケート結果を集計しまして、6月6日に総務部会でその内容を検討しました。そのアンケートの総数は109通、内訳としましては、恵那南中学校45、恵南中学校20、南中学校7、知新館中学校2、その他が35という票数になっております。この上位3校名につきましては、事務局のほうで回答理由をまとめております。

総務部会におきましては、その他の1票だけの校名についての提案理由を知りたいという委員からのご意見がありまして、全ての提案理由を読み上げて確認させていただきました。その結果、上位、第1候補「恵那南中学校」、第2候補「恵南中学校」ということで、総務部会としては理事会にお諮りするという形で決定いたしました。細かな点につきましては、事務局から説明していただきます。

事務局 では、事務局のほうからお話しさせていただきます。

資料ですが、5ページのところをご覧ください。5ページ、6ページになります。

応募期間、4月1日から5月10日までの間に応募のほうを行いました。その結果、7ページ、8ページにあります。合計109通の応募がありまして、その校名のアンケート結果について、恵那南中学校が45、恵南中学校が20、南中学校が7、知新館中学校が2、その他が35でございます。その他の回答、1票ずつのものもありますので、これについて9ページのほうに載せさせていただきます。

10ページのところです。恵那南中学校と回答した理由の中では、既存の中学校を統合していった恵那南中学校とするとバランスがよいこと、それから、5校の統合事情、それからほかの3校のことを考えるなら恵那南中学校の名称がよいこと、それから、「恵那」という言葉を入れたことで恵那市の中学校であることがよく分かるということで、「恵那」は入れるべきであるというようなご意見もありました。委員の中からも、恵那南中学校、単に地名というか、方角を示したものではなくて、そこの中に様々な思いがある言葉であるというようなご意見も頂いております。

ご覧ください。11ページです。恵南中学校です。5か町村を恵南と言うから、それから、統合となる5つの中学校や新中学校の校区などについても容易に想像ができること、それから、2つの漢字であって読みやすいということがありました。

南中学校については、これは「恵那」が抜けておるのではないかなという想像もあるわけなんですけど、現在、東、西、北側、それで南に位置するというようなご意見がありました。

その他、委員のほうのご意見の中から、1票の中でのそれぞれの思いを聞きたいということがございましたので、事務局のほうで説明をさせていただきました。その中で、先ほど会長のほうがご説明ありましたが、新中学校の名称として、第1候補「恵那南中学校」、第2候補「恵南中学校」ということで、総務部会のほうからこちらのほうに承認を求めるということでまとめさせていただいたところになります。

以上でございます。

副理事長 ありがとうございます。ただいま総務部会から学校名の提案があり、第1候補が恵那南中学校、第2候補が恵南中学校であります。この理事会にて学校名を1つに決定し、総会に諮っていく必要がありますが、総務部会からの第1候補としての提案は恵那南中学校です。学校名を恵那南中学校に決定することについてご意見等はございますか。よろしいですか。

委員 ちよつと。

副理事長 はい。

委員 恵那南という地域の名前を冠したことは、私はとても価値があることだと思います。学校がそもそも誰のものかということが根本にあると思うんですけど、校長や教頭のものなのか、管理する教育委員会のものなのか、設置者の市のものなのかって考えたときに、やはり学校は僕らの学校といいますか、地元の学校ということで、地域に支えられて、地域とどんどんやっていたと思うんですよ。ですから、公立学校はやはり今度でいいですよと5つの校区の学校名を冠することがとてもいいことで、やはり地域とともにある学校を目指していくという私たちの決意でもあると思って、それについては賛成です。

ただし、ちよつと説明してほしいのは、例えば、統合中学校の校名の募集の中で、必ずしも多いものを、多かった校名が選定されるものではありませんとか、校区の児童生徒、保護者及び地域が将来にわたって親しみや愛着を持てるものにするであるかとかいう観点を持っていますよね。だから、ここに今提案がなされましたけど、これはその回答した理由だけであって、統合準備委員会としてこういうふうだから選びましたよっていう解説が要るんじゃないですかね。

例えば、この1票に上げた、1票の中に目をかけて見るんだと思うんですよ。じゃあ、どうして最終的に統合準備委員会として恵那南中学校にしたのかという理由づけをきちんとして、ここにある南中学校とした理由じゃなくって、準備委員会として次のような観点から恵那南中学校に決めましたというふうに、きちんと説明する必要があるんじゃないかなと思って。こんな意見があつたか

らという、アンケートした人の理由を書きおけるだけでは、なんかはっきりしないなということを感じましたのが一点。

もう一つは、これもずっと事務局には言ってきたんですけど、ちょっとぶれてあるということを感じたんですよね。それは何でかということ、恵那南地区統合中学校準備委員会とか言っているけど、これ、誘導的というか、恵那南地区なんていうのは教育委員会がつくただけであって、全然その周囲の中で、これ、地区なんです。地域とは違って地区名。恵那南地区、恵那南地区って思考停止になって言い続けてきたけど、何でこの恵那南地区なんていうのを掲げたいんでしょうね。例えば、恵那市のホームページを見ると、恵那市は3つに分かれています。北のほうにあるのが笠岡地域という地域です。中央部には市街地周辺地区があります。そして、南には恵南地区がありますと言っているね。インターネットを引いても「恵那南」って出てくるのは、恵那南高校と恵那南地区中学校統合準備委員会の2つだと。全然そういうことがないで、今、誘導的じゃないかなということも思ったりする。

あわせて、3月に行われた説明会では、「仮称」と書いて「恵那南中学校統合中学校の開校に向けての説明」というようなことを盛んに「仮称、仮称」と言って宣伝してくれましたけど、そういうのっていうのはやや、私、本当にいい名前だと思って大賛成ですけど、周囲の人に聞くと「出来レースやな」、「ただつくりゃあええわ」という感じでわくわくしない状況よね。新鮮味がない。それは何でかということ、事務局が今言ったように恵那南地区なんていう地区をつくって。

ちなみに、自慢しますけれども、瑞浪では——瑞浪でごめんなさいね。これがしゃべりたいのと言っておるだけ——瑞浪市南部地域統合準備委員会というふうに、恵那市だったら恵那市南部地域中学校統合準備委員会というふうにしてきました。それは何かちょっと深いお考えがあるのかお聞きしたいです。

事務局 事務局、私のほうからでいいですか。別に私どもが恵那南地区ということこれを掲げたことに、特に特段のそちらの方向に持っていこうという意図があったわけではありません。分かりやすく恵那市の中の南の地域ということを表すために、この言葉で案を表したのみです。別にこれの言葉をもって恵那南中学校に誘導しようだとか、そちらのほうがいいだとか、そういった思いは毛頭ございません。ひょっとするとそんなふうに思われたということは、私どもとしてはちょっと残念だとか、そんなことをちょっと考えてもなかったことですので、すごくちょっとその点についてはもう少し丁寧に考えていくべきだったなということはおもっております。先生のご指摘を受けて、はっと感じたところがあります。

委員 もう一つだけ。どうして3月の説明会の中では「仮称」とか使って使われているんですかね。「仮称」というのは、今度ここで決まった後、議会で学校設置条例が決まるまでの間、議会で議決して正式名称になるまでの間が仮称なのであって、もう3月の時点から「(仮称) 恵那南地区中学校」なんて言われていたら、やっぱりみんな「知らねえから」ということは思うんですよね。それに

ついてはいかがですか。

事務局 これについても、そういう言い方自体がひょっとすると皆さんに誤解というか、理解というか、そちらのほうに意図はこちらはしていないんですが、そういうことをちょっとさせてしまっているようなところがありましたら、これについてもちょっと申し訳ないなというふうで思っています。ただ、私どもとしては、特にそういった特段、恵那南中学校というようなところでお話というか、持っていこうということでは思ってはいませんでした。ただ単にそういうふうで書かせて、分かりやすくというか、そういったことを思って書かせていただきました。

副理事長 よろしいですか。

委員 はい。いい名前が決まったと思って。ただ、私はそれがなんかもっとみんなで大喜びするような、地域に根差した地域とともにある学校をつくっていくのに、教育委員会がサービスを提供するんじゃないくて、地域の私たちも一緒になって、学校の先生と保護者だけが協力者じゃなくって、地域のみんなども入ってやっていくという、地域に支えられた学校という、とてもいい名前だと思うんですが、しかし、なんか（発言する者あり）はい。分かりました。

委員 はい。

事務局 はい、どうぞ。

委員 これって、こういう今名前が出ましたよっていうのは、子どもたちには一回セッティングしているのですか。

事務局 そもそもこの統合のための統合準備委員会のために、まず、何かというと、総務部会に諮っています。その後、これについては、理事会、幹事会、総会という組織の決定の方法がありますので、まだ子どもたちにといいことはいいです。

委員 でいうと、一つの意見なんですけど、本当は、私は本当にその5町の子どもたちが自分たちでつくったみたいな学校のほうが私はいいなと思っていて。だとしたら、例えば、こういう候補名が出ているけど、どういう学校にしたいっていうのを子どもたちに聞いたりとか、どういう学校名がいいと思うっていう子どもたちの意見の反映もしてもらえたらいいのかなって私は思うんですけど。

事務局 まず一つは、どんな学校にしていきたいかということについては、当然のことながら、学校のほうで、今、子どもたちを中心にどんな学校にしていくかを今後考えていく、それから、生徒会だとかの交流なんかもありますので、そういう方向で進んでいくかと思えます。ただ、学校名の募集、それから決定の方法については、今、この流れの中でこのルールにのっとってこういうふうで今やってきているところなので、そこの中でちょっと子どもに聞くという流れのところは、今、想定をしていませんでした。私どもとしては、とにかく何かと公募をして地域のいろんな方々からまずは意見を取れて、保護者も子どもも、それから市の住民についても投票することができますので、そういったことで進んできておるところです。

委員 ルールっていうのは分かったんですけど、例えば、先ほどおっしゃったように、

何でこの名前にしたのかというところって、例えば、じゃあ子どもたちが「こうがいいよね」って言ったからということってすごく重要なことだなと私は思っていて。子どもたちにも意見はあるだろうし、子どもの権利条約というものもあるので、子どもたちは一個人であり、大人と同じように扱ってもいいんじゃないかなって思う部分があつて。子どもたちの学校なので、一度聞いてみるっていうのは私はありなのかなって思うのは思います。

事務局 そもそも募集のところ、これを意見に決めるということで皆さんに意見を聞いているわけです。それで、こういった形で意見が決まってきたので、それをまた、何かというと、「どうですか」——これ、もし例えば駄目って言われたときに、要するに募集、今まで応募をかけた意味というか、この流れの中でやってきたことが覆ってしまうのは何かちょっと変な気はするんですが。恵那南に決まっている今、こういう段階でこういうふうな流れできているということについてはお伝えするという事はいいかと思うんですが。

委員 でも、例えば、覆ってしまったとしても、学校が誰のものなのかってところに根本あると思うんですが。覆ってしまうとか、何かルールが変わってしまうからやらないっていうのはどうなのかなって思うのは思います。

事務局 そうなると公募や応募をしたあんまり意味というか、それがなくなってしまいますよね。何かというと、4月1日から5月の10日の間に名称について募集をするということで決まってきた、皆さんにそういうことで問うたわけです。その中から意見を返ってきたものを総務部会でも検討させていただきました。その中で決まってきたわけです。それを、何かというと、もう一度返すということは、聞いたことをもう一回、「いや、違う」と、「違う方法がいいよ」ということに、何かというと、流れを変えてしまうことになってきませんか。

委員 あなた、総務部会にも出ていましたよね。決定に参加していますよね、総務部会として。それはなかったことにするんですか。

委員 意見は言っちゃ駄目なんですか、そういう。

委員 いやいやいや。総務部会で決定に参加していますよね。

委員 でも、決定に手は挙げていないんです。

委員 個人で手は挙げられなくても、部会としてはそれで行くっていうふうに進められたんですよ。

委員 そうです。はい。

委員 だから、ここで、ごめんなさい、個人の意見を述べられることも大事かもしれませんが、まずはその部会で上がってきたことを大事にしていくというほうがいいのではないかと思うんですが。

委員 私もわざわざそれを聞く必要はないと思うんですよ。さっき地域は誰のものかって、ごめんなさい、学校は誰のものかって言いましたけど、それが例えば今の保護者とか今の子どもってことじゃなくって、私たちはたまたま自治会長とかしてここに居合わせていますけど、しょせん風の人なんですよ。だから、10年とか20年とか、いわゆる地域、土の人っていうか、そういうものだから、今の保護者に聞いてどうのこうのっていう名前では、やっぱり人気

みたいなものになっちゃうと思うから、ずっと50年先でも私たちの先人はいい名前をつけてくれたなというような名前です、恵那南はそれでいいと考えますけどね。

副理事長 ありがとうございます。よろしいですか、ほか。——意見がないようですので、お諮りをいたします。統合中学校の名称について、恵那南中学校と決定することに承認される方は挙手をお願いしたいと思います。

[賛成者挙手]

副理事長 ありがとうございます。課題 No. 1、新中学校の名称については、賛成多数により、恵那南中学校と承認されました。

続いて、(2)……

委員 すいません。

副理事長 はい。

委員 恵那南中学校で、今、それで承認されたことは特にいいと思うんですけど、先ほど言われた、この名前がわくわくする名前です、こういうふうに決まったよっていうところはやっぱり残しておく必要があると思うんですけども、それはどのように。部会でちゃんと残す。総務部会でもう一度諮って残す。それとも、ここで議論する。アンケートの結果がこうであったからこうされましたのか。そこはどうされますか。

副理事長 どうですか、事務局。

事務局 事務局としては、この間の意見の中でも、恵那南っていう思いの中に当然のことながら、後世の中に残っていく名前であるだろうし、ここの地域を表すことが、ここが恵那の中の南ということは誇りを持ってやっぱりやっていきたいという意見もありました。やっぱりそういったことがあるということは、総務部会が出た意見の中でもすごく大事なことですし、これ、アンケートで答えていただいた理由の中でも、やっぱりこれって酌むべきことですし、これをやっぱりその中で強い思いを持って言われておられる方も当然いるわけですから、これについてはこういったところでやっぱりこういった思いを酌みながら出していきたいとか、ぜひ、また、アピールしていく言葉にしていきたいなと思います。もしまたそういったことで、この学校の言葉の中に持つ意味があったら教えていただくことがすごく大事なことです、例えば、ここで教えていただいても結構ですし、それから、総務部会で教えていただいても結構だと思います。そういった中で、ここでは取りあえず決定なんですけど、そこの中の思いというのを教えていただくと本当にありがたいなということでは思いますし、広めていくことになるのではないかなと考えております。

副理事長 ありがとうございます。よろしいですか。

それでは、(2) 課題 No. 9、校舎の増築・改築に関することについて、環境部会から説明をお願いします。

環境部会長 環境部会長の若森です。お願いします。

環境部会のほうでは、昨年8月に、まず、現状把握、現状認識をしましょうということで、現地の今の山岡中学校のほうに見学会を設けました。その後で

会合を重ねまして、今ある校舎のところで改修に関わる部分、あるいは、当然生徒の数が増えますので、今の部分では足りない部分は増築をするというようなことで意見出しを行ってきました。その中で、そうした学校というか、校舎を増築あるいは改修するに当たっての基本的なというか、大切な考え方というのを基にアイデアを出して、それを図面のほうにどのように落とし込みができるかということでまとめたものがA3の図面になります。

現行ある普通教室のほうを今度新しくつくる教室校舎のほうへ一括して取りまとめると。現行の校舎の1段下にグラウンドがありますが、その東側、現行校舎に向かって右のほうですが、そちらに建物を建てて、既存校舎と渡り廊下で結びつけるというようなことになっております。それと、もう一つ下にB&Gのグラウンドがありますので、そこでの一体化をしたといいますか、有効な活用ができるのではないかとということで、校舎のグラウンドに建てたことはそういうことにもっております。

あと、いろんなアイデアが出たんですけども、一番大事なのは、子どもたちがこうした環境で学ぶのに何が大事なのかということで、今言いました校舎にしても南向きにするだとか、そんなようなことをしております。一部、法律といいますか、そんなような取決めの中でかなわないような事項も出てきております。そうしたことはちょっと致し方ないなと思っておりますが、いずれにしても、参加していただいた方々から出していただいた意見、これを重ねてきたものが図面に落とし込んだ今の成果になっておりますので、ひとつよろしくお願いをいたします。細かなことについては、事務局のほうからお願いをします。

事務局

では、環境部会の事務局からご説明をさせていただきます。

資料の16ページになります。

環境部会におきましては、校舎づくりにおける大切な考え方、そして、その次にあります増築校舎の配置計画の案、そして、アイデア提案事項、これらを取りまとめて建築設計に反映していくということとさせていただいたものです。

そして、まず、16ページにあります校舎づくりにおける大切な考え方としましては、増築校舎では、①とあります広く使いやすい新しい環境の教室。そして、②増築する場所は学校グラウンドの北東側に普通教室を配置する。あと、校舎づくりにおいては、⑥にあります交流スペースをつくる。⑦にあります相談室等のスペースも確保する。そして、⑧です。教室は有効利用を図れるようにする。このようにまとめさせていただきました。そして、4にありますアイデアです。18ページにあります。それがここに書いてあります①から⑭のように提案がなされました。これを基に設計のほうに反映していただきたいとして進めてきたわけです。

それでは、A3サイズの図面を少し見ながらお話しさせていただきたいと思っております。

このような提案されたアイデアを基に具体的な設計として示されたものが今お手元にある図面になりますが、1枚めくっていただきますと、増築校舎の1、2階とありますこの図面、ここで示してあるように、木を使った明るい生徒玄

関、右側のほうにあります各階に人と荷物用のエレベーターを設置する。そして、トイレはみんなが使いやすいみんなのトイレと、このようなものとして具体的な設計として落とし込んであります。

次のページになります。3階と屋根というところ。開放的な廊下、ワークスペース、そして、広々とした教室としております。屋根には太陽光パネルを設置して、環境にも配慮していくというところ。そして、もう一枚めくっていただいて、こちらは既存校舎の1階になります。校内教育支援センターと左下に書いてあります。これは、安心していろんな生徒が過ごせる居場所として設置していきたい。また、中央部分には文化の交流スペース、こういうものを設けていきたい。このように図面のほうに設計として反映がされてきておりました。部会のほうでも、自分たちの出したアイデアがこのように反映されてきたということを確認して、今回、この理事会のほうに提案をさせていただいております。これによりまして設計を仕上げていき、進めていくことを今日ここでご確認いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

説明は以上です。

副理事長 ありがとうございます。

ただいまの説明に対してご質問等はございますか。はい。

委員 新校舎が北東側に建てるわけなんですけど、この図面を見たら結構画像がぎりぎりのように感じるんですけど、実際に山岡中学のグラウンドに行ったことがないのでちょっとイメージが湧かないんですけど、運動するのに結構、どう言いましょうか、圧迫感があるというか、なんか思い切り活動ができないかなって僕は今思っちゃったんですけど、実際どうなんですかね。

副理事長 お願いします。

事務局 運動場、従来の運動場の北東側に校舎をつくっていくということですが、このレーンを取るということでは、最低限、ここで可能であるということで、こういうトラックを使う場合ですと、かなりグラウンドの全体を使うような形になるかと思えます。これはもうそういう形になりますが、ここで一応収まるということですので、これに関しては、学校の敷地、グラウンドということでは、これで一応クリアはできているというふうに判断がされている設計になっております。あと、例えば、大きな行事をやったりとかいう場合のことのご意見がありました。ここは、この下に山岡B&Gグラウンドというところがありますので、そのグラウンドの有効活用ができるんじゃないかということで、時に応じてそちらのほうも使っていこうという計画がされております。

委員 B&Gのグラウンドというのは、常に借りれるんですか。

事務局 そうですね。はい。

委員 別にその辺は問題なく。

事務局 はい。現実、日中の昼間は、一般にはほぼほぼ空いている状態です。

委員 それでは、部活動をやる時、部活動、何をやるかはまだ決定はされていないと思うんですけども、例えば、球技をやられる野球、サッカー、バスケとかあると思うんですけど、例えば、グラウンドを使いたいとなったときに、B&

Gを使えばいいかっていう問題もあるかもしれないですけど、例えば、僕は野球部だったので野球のことなんですけど、ノックとかバッティング練習とかをやりたいときに、校舎に向かってパーンと行って窓ガラスが割れるとかそういった経験があるので、その辺とかは大丈夫かなというような心配があるんですけど。

環境部会長 今の話で、例えば、野球部が以前は山岡中学校で1チームできるほどの所帯でありました。その当時はB&Gのグラウンドを使用していました。サッカーもそうです。テニスコートもその近くにありますが、ですから、それは別に、この後、新しいクラブができたときに使用するという点については、全然支障はないということで私は思っていますが、いいですね、それで。

事務局 そうですね。B&Gのグラウンドは、今回、この中学校ということもありますけれども、優先的に日中使うような流れを示していきたいというふうに考えていますので。例えば、恵那西中学校でももう一個グラウンドがあるとかいう形で、いろんな学校でも近隣のグラウンドを使っているということはあるので、ここもそういう有効活用が図れるグラウンドがあるということで、これは使っていきたいと考えております。

委員 分かりました。ありがとうございます。

委員 もう一つ、いいですか。

副理事長 はい。

委員 今言われたように、何か、要は、山岡のB&Gのグラウンドと、それから体育館もありますし、プールもありますし、だから、そこが本当に優先的に子ども主体の山岡中学校主体で使えるというような形の部分があれば、それは物すごい環境です。だから、そこがないときこのグラウンドだけでは話になっていけませんので、その辺は、何ていうんですか、西みたいに第1体育館、第2体育館、第1グラウンド、第2グラウンドって呼ぶんですけど、こんなふうに使ってしまうような仕組みはちゃんとできるんでしょうか。

事務局 お答えさせていただきます。

まず、今後、工事がいろいろ入ってまいります。その際に、今の山岡中学校のグラウンド自体が少し使えなくなってしまう可能性もあるので、現在、B&Gについては、恵那市が恵那市体育連盟に指定管理を出していますが、その中で、統合するまでの間については、まず、山岡中学校に日中だけですけれども、優先的に使わせていただきたいという調整をしており、ほぼほぼオーケーでございます。ただし、夜間に関しては、やっぱり一般の方とかが使われます。中学校が夜間使うというのはあんまりないですけども、日中に関しては基本中学校優先。

統合後なんですけれども、今のようなお話があるので、そういった面で調整をしていきたいというふうに思っています。B&Gを使っている方というのは、土日と夜間ぐらいしかありませんので、日中に関してはなるべく統合後も中学校が優先的に使えるような、そういったような調整をしていきたいというふうに考えております。以上です。

委員 もう一点、細かいことですが、増築棟の教室棟のほうじゃなくて、既存のほうの今の校舎のほうの設計図の中で、3クラスですのでそんなに心配することはないのかなと、シミュレーション大丈夫かなと思うんですけど、理科室が1個で回りますかという、時間割が。

委員 2個使っています。

委員 そうです。

事務局 そうですね。じゃあ、それで。今、一応画面にも出しております、2階のこの図面にありますコンピューター室を理科室に改修というところと、実はその下が理科室、もともと理科室です。ですので、2教室を今計画いただいておりますので、すいません、ちょっと見づらかったんですけども。

委員 いえいえ、申し訳ない。見落としておって申し訳ないです。

副理事長 ありがとうございます。ほかよろしいですか。はい。

委員 すいません、これ、部会で多分話をすればよかったことだと思うんですけど、僕も環境整備部会に入っておったんですけど、この図面を見させてもらって、当初はこれですばらしい校舎だと思ったんですが、増築部分の校舎が木造で3階建ての校舎だという話で、渡り廊下も建設してつけるということで、かなり高層建築になるんですよ。2階部分は別にいいと思うんですけど、3階部分に関しては落下をする、人が落ちるというパターンが、他の校区の情報を見たらそういう事故があったらしいので。それは何でそうなったかというのは、特に悪ふざけをして落ちたというのがあって。今も多分その生徒は入院しておると思うんですけど。なので、すいません、ここ、3階部分だけでも落下防止設備をつけてもらうということ、本来、それは部会で言わなあかんかったことなんですけど、すいません、ちょっとその情報があったもんですから、ここの場で出させてもらいます。申し訳ございません。

事務局 そのようにさせていただきます。

委員 すいません。

事務局 よろしく願いいたします。

副理事長 ほかによろしいですか。

委員 お願いします。やっぱりもともと学年2学級の学校を改築していくということで、かなり難しいと思って、それまで一生懸命、環境部会の人材を出してもらってありがたいなというふうに思いますが、これ、見通しとして、現在もう実施設計をしているんですね。だから、どんどん確定してきよるということですよ、簡単に言えば。今日の会議の中ではいろいろ気になったことやいろいろ言ってもいいということなんですかね。それとも、これを一応承認してくれということなのか。どうなの、そこは。

事務局 私のほうから。基本的には、今、これまでのご意見を頂いた中で、これをなるべく反映させるという形でこの図面が今できております。なので、大枠の基本ベースとしては、これをご承認いただきたいというところがございますが、今言ったように、細かいところにつきましてはまだ多少の変更も可能ですので、変更というか追加も可能ですので、もし気づいたところがあればお話しただ

ければなと思います。

副理事長

よろしいですか。

委員

例えば、既存校舎の2階の平面図を見ていただけますか。ここに音楽室が3つ
つくるんですね、これ。さっきの話で、理科は授業数が多いので3つないと
いけないけど、音楽室とかいうのをどうして3つもつくるんですかね。もっと
別の教室に充てて、例えば、新しい学校では、理科室とか理科だけじゃなくっ
て、社会科も特別教室をつくって、社会の資料をいろいろふんだんに置いてお
いて、社会はその教室でやるとか、そういうふうにも子どもたちが勉強に向かっ
ていけるようなそういうことでもいいのに、何でというか、3つもそんなに持
っている学校ないと思うんですね。

事務局

これはパート練習用です。学校の先生との打合せの中で、音楽室については、
どうしても合唱練習の中でパート練習用のスペースが必要になるので、2部屋
設けてほしいというご意見を頂いて、このような設計にさせていただいており
ます。

委員

パート練習だけやったら、音楽室2を2つに切ってパートが入れるようにした
らいいんじゃないの。

事務局

音楽室の役割として、楽器を収めるスペースであるとかそういったことも加味
すると、この1つの部屋だけではちょっと足りないということで、この2部屋
を追加して音楽室とさせていただいているところです。

副理事長

よろしいですか。

委員

すいません。

副理事長

じゃあ、〇〇さん。

委員

すいません、ちょっとここで聞くことかどうかわからないんですけど、今現在、
建築業界の話を知ると、労働基準法が変わったりとか、物資が手に入りにくい
とか、あと労働者が減っている現状があって、これは間に合うのかなど。すご
い素朴な疑問なんですけど。

副理事長

いかがですか。

事務局

間に合います。今回も、皆さん、議会を見られた方はご存じかもしれませんが
けれども、6月議会のほうで、実はこの校舎の構造材と、それから内装材につい
て、契約行為を進められるようなそういった議決を頂きました。ですので、今
後、要はその材ですね、建築の建て方という、一般でいうと建前ですね、そ
れに先んじて、そういったようなものの契約を進めてまいります。今年の4月
1日から、労働基準法の働き方改革が完全に施行されてしまったので、努力義
務として例えば土日を建設業界もお休みにしましょうとか、そういったような
ものがステップアップしました。そういったものに当然我々も配慮する必要が
ありますので、なるべくならば先にできることを行い、当然、建設業界さんの
ほうがそういったように働きやすい環境に持っていくのも我々の役目です
ありますので、十分に配慮した形で進めてまいります。

副理事長

ほかよろしいですか。

委員

もう一つだけいいですか。

副理事長 ちょっと待ってください、〇〇さん。どうぞ。

委員 すいません、ちょっと教えてほしいんですけど、これ、バスが入ってきたときに、どこでこのバスを待つとか巡回するというのは、どこでやるのか教えてもらってもいいですか。

事務局 じゃあいいですか。

副理事長 はい。

事務局 この今お示したところには、バスが入ってくるようなところまでは、ここは想定はしていません。環境部会でも話しておるのが、B&Gのグラウンド脇、そして、この図面でいうと右側にはこども園があります。この辺りのところでバスから降りるといところをつくと。

委員 B&Gの辺りにということですか。

事務局 そうですね。学校よりも1段下のところですね。

委員 じゃあ、もう学校の正面のところまではバスは入ってこないということですか。

事務局 そうですね。はい。ここは、緊急時の保護者への引渡しというときには、それぞれ保護者の方の車は上まで上がってきて子どもを引き渡すということはしますけれども、通学のバスはここまでは上がってこない、そういうルールで進めてきました。

委員 じゃあ、緊急時に入ってきたときは、すごい保護者の行列ができると思うんですけど、そういうことは想定内でやっているんですか。

事務局 そうですね。はい。ちょっと追加で説明しますと、既存校舎の周りにちょっと緑色の線が引いてありますよね。校舎をぐるっと囲むような形で車列を回していくという案を皆さんで協議して、そういうふうにしようということでの引渡場所を確保するというので、ある程度の車はそこでうまく回せば、多い車でも対応できるということを計画しております。

委員 時計回りの一方通行でしたよね。

事務局 そうですね。

委員 下から入って上に回って行って降りるといことですね。

副理事長 はい。

副理事長 ほかよろしいですか。〇〇君。

委員 すいません、ちょっと1点確認させてください。バリアフリー対応ということで、エレベーターを新築校舎に設置されたという状況でしたということがあって、その場合での確認です。新築校舎に、このエレベーターはどのようなときにどういった方に対して活用されるという予定で設置されたのかというのを伺いたいのと、この場合、既存校舎のほうにはエレベーターがないですけれども、例えばですけれども、例えば、脚を骨折されたというちょっと自分なりの想定です、された場合にこちらを使うというように想定されたのであれば、その際に、既存校舎には渡り廊下を渡っていくということになると思うんですけれども、そういった場合の配慮というのはされて、そこの位置にエレベーターを設置されたということによかったでしょうか。

事務局 そのお話もありました。今、ご覧のように、増築校舎棟のほうにエレベーター

を設置しております。これはもちろん、今おっしゃったようなそういうときでどうしても階段が上がれないよというときに活用していただけるというものと、もちろん、荷物、要は給食を運ぶの、それも兼ねて使えるというサイズのものをつくることにしました。既存校舎のほうは、位置的なものとかいろいろなことを考えまして、やはりちょっとつくるのは厳しいということで、増築校舎棟に設けて渡り廊下を移動していただくという方法を取らざるを得ないという形の設計ということでご紹介をさせていただいております。

委員 その場合って本当に、体が不自由という言葉は使っちゃいけないかもしれないですけど、本当にそれで大丈夫なのか。結局、不便だからって階段を使って、松葉づえをついていてまた転んだとか、よくある最近ニュースでやっているんですけども、こういった配慮はしているんですけども、意味を持たないというようなことになりかねないんじゃないかなというふうに思っていて、そこまでちゃんと、多分皆さん、議論させていただいているのにこんなことを言っちゃいけないと思うんですけども、そこまでちゃんと配慮されて考えられているのかなって。さらに思うのが、今回、図書室のほうを2階、初めて階段にさせていただいているというような状況なんですけど、そういった方ってじゃあどうするのって考えたときに、一回エレベーターまで行って、また戻ってさらに1階に行く。また2階に行きたいときは、またエレベーターのところまで行って2階に行きますとかっていうようなことをちょっと考えてしまったんですけども。あと、ほかに考えられるのは、授業間ですけども、例えば、今回はごめんなさい、全部、専門教室は2階にあるんですかね。1階から2階に行きたい場合には、まず、わざわざ渡り廊下を渡ってエレベーターまで行くのかというようにちょっと考えてしまったんですけども、その辺りについてはどうでしょうか。

事務局 そこも議論はありましたけれども、施設のなところで、全ての条件がうまくかみ合うのかというところは、既存校舎の改造というところで制約が出てきてしまうところはあるよというのは、前提で話をしております。ですので、そこについては、今おっしゃったような使い方をしようと思うと、不便を少し感じるの理解できます。ただし、これが今精いっぱい状況でしたので、これで今は進んでいる状況ですので、こればかりはもうご理解いただくしかないのかなというように思います。

委員 分かりました。

副理事長 ありがとうございます。ほかは。

委員 はい。

副理事長 はい、〇〇さん。

委員 新しい増築したところに子どもたちを集めるということについては、苦肉の策というか、考えられたと思うんですけど、これから新しい学校になったときに、学校経営といいますか、学年経営が中心になると思うんですよね。今までは全校でやっていたものが、学年でスポーツ大会をやろうねとか、学年で少年の主張大会のコンクールをやろうねとかになるんですよね。そうすると、どうして

も学年室というか、多目的ホールが近いところに必要だと思うんですね。それって、大きな学校に勤めた方は分かると思うんですけども、やはりすごく学年単位での子どもたちの活動を保障していく上で、子どもたちの学びをしていく上で大事だと思うんですけど、これはさっきの話、近くに置けないにしても、どこかにやっぱり音楽室をつくるよりは、そういうものをつくってもらったほうが子どもたちが活動できるというか、すごく学びが深まると思うんですけど、また考えてください。それが1点目。

それから、職員室の位置ですけど、これ、ちょっとごめんなさい、校長室の位置ですけど、校長室って、恵那南地域か恵南地域か知らないですけど、基本的に職員室の奥に置いてありますか。

事務局 これら建築に関しましては、この部会のみならず、設計者のみならず、学校の先生にも広く意見を募って、現状の増改築というところの中でどれが一番最適なのか、どれが一番みんな「分かった。これしかないやろう」ということになってきたというところを議論した結果でもあるというところで、今、この図面が進めているというところですので、校長室の位置に関しては、ここに関してはもうこのような形でというところでは今は進めさせていただいております。いろんなご意見は確かにございましたが、どこかで折り合いをつけていくことの図面となっておりますというのが今の現状でございます。

事務局 ちょっと追加で。まず、今のご質問の中で、学年集会、学年での交流ができるかできないかというところ、そういうスペースをとということですが、増築棟のほうにはワークスペース等を設けまして、ちょっと広めの廊下が全て配置をされています。いわゆる廊下は通路としてだけではなく、少しワークスペースを広くすることで、ちょっとしたミニ集会的な活動とかいうことはそこで可能ですし、もちろん、メディアスペースには学年集会ができるように、1学年が全員が座れるぐらいの椅子の数は用意して倉庫に置いておくという形を取っているかなと思っています。各部屋はこういった形で配置をしますけれども、学校が開校した後に学校運営の中で適宜、理科室のような設備が要するところは無理かもしれないですけど、部屋だけのところは有効に活用していただければなということは考えていますので、ご理解いただきたいと思います。

以上です。

副理事長 ありがとうございます。ほかよろしいですか。

委員 はい。

副理事長 はい。

委員 先ほど、6月の議会で建築資材を購入していくということをおっしゃっていたんですけど、そうすると、ざっくりとした予算というのが出てくるんですかね、建築に係る。

事務局 全体予算については、実施設計をしている最中ですので、まだ出ていないです。

委員 予算がなくても建築資材を買っていけるということですか。

事務局 そういう形で議決を得ましたので、お願いいたします。

委員 どれだけ予算がかかっても買えるということですか。

事務局 要は、幾らかかるかまだ今は分かりませんので。まずは構造材、それから内装材という基本になる部分の契約を進めるために債務負担行為という議決をいただきました。

委員 もう一回お願いします。

事務局 債務負担行為。

委員 債務。

事務局 負担行為。

委員 負担行為。はい。

事務局 限度額が2億円という。

委員 2億円までだったら何でも買っていいよみたいな。

事務局 何でもっていうわけじゃないです。統合中学校に対する、要は構造材、それから、こういうところに使う内装材。

委員 内装とか建築に係るものは、その2億円の中で買っていいですよということですね。

事務局 なんでも買っていいものではないです。

委員 じゃあ、それに関しては、建築の例えば道路のこととか、そういうことにも。

事務局 それは。

委員 また別。

事務局 条件があります。

委員 じゃあ、今回は学校の建物のところに関わるものだけが2億円だけ使っていいですよということですか。

事務局 建物の材料に使っていいです。

委員 なるほど。

事務局 ですので、建築に係る建築費が出た場合は、この2億円で買った分は削りますので。

委員 削る。

事務局 はい。その分は上乘せしませんので、先にそういったものを仕入れるので、建築費の本体からはそれを除きます、当然。

委員 どういうこと。すいません。よく分からなくてすいません。

事務局 例えば、一つの例を言います。例えば、材料を買うための債務負担行為を2000円しました。実際の建築費は1,000円でした。その1,000円から2000円を引いて、800円が実際の建築費ですよという、そういう形に。

委員 その2億円はどこから出てくるんですか。

事務局 少しお時間を頂ければ詳しいお話をさせていただきます。今回皆さんがよければ説明しますけれども。

委員 すいません。

委員 説明してもらっていい。

事務局 簡単に言いますと、建築に関するということを言いましたけれども、その中でもさらに柱、はりに使う材料を準備する契約をしてもいいですよという、そういう意味です。あと、もう一つは、内装材とって、腰の高さぐらいに板が張

ってあるところがありますよね。ああいうところで使う材料を用意してもいいですよというようなのが今回の2億円の条件です。だから、その2億円の中で材料費、柱とはりと腰板、仕上げ材については使ってもいいですよという、使ってもいいというか、契約してもいいですよと。当然、契約するといったって、今日頼んであした来るわけじゃないので、切った木を加工しなきゃいけないので、それで準備をする行為をしてもいいですよというのが今回の議決の内容です。

それは全体の予算の中から差引くと言ったのは、例えば、全体で1億なら1億かかるよという中では——1億ではないですね。2億でもない。3億かかるよという中で、次にじゃあその3億に2億を足して5億にするのではなく、3億の中から2億を引いて、1億と2億を足して3億になるよと、そういうようなイメージを持ってもらえればなど。

委員 ありがとうございます。分かりやすかったです。その2億というのは、皆さんの税金から出るんですか。

事務局 財源自体は、税金はもちろんですけども、例えば、いろんな今補助金なんかもありますので、補助金、いいものがあればそういったものを活用したりしたいと思っております。

副理事長 よろしいですか。

委員 いいですか、それでは。

副理事長 はい。

委員 プレゼンエリアってあるんですけど、一体どんなものを想定されているんでしょうか。（発言する者あり）

副理事長 先に言っちゃいます。次のでやります。これ、次の……

委員 すいません。今日の議題の……

委員 次の議題に出てきますので。すいません。

委員 次の議題の中のものになってしまいますか。

委員 すいません。

委員 最大時の周回のスロープとなっておりますけど、校舎をぐるっと回って行くということなんですけど、これって各車の高さとかって制限ありますか。

事務局 高さは制限ないです。

委員 ないんですか。

事務局 はい。

委員 書いてあるので、校舎のところへ。

事務局 そうですね。渡り廊下のところではありますけど、当然、緊急車両が入るだけのスペースは十分に空けていますので、通常の乗用車は全く問題なく。

委員 車高を上げている車とかあるんですけど、そういう車は問題ない。

事務局 相当高い位置になりますので問題ない。

委員 よっぽど大丈夫ですか。

事務局 はい。

委員 はい。ありがとうございます。

副理事長 よろしいですか。質問がないようですので、お諮りをします。課題（発言する者あり）はい。

委員 いいですか。

副理事長 はい。

委員 更衣室って、ごめんなさい、どこにあるんでしょう。

事務局 更衣室は既存の建物のほうに設置してあります。これは学校さんとも相談させていただいたんですが、更衣室を使うケースというのはほぼないだろうということでおっしゃっていただきまして。ただ、どうしても使わなければならないというときのために、既存の校舎の中に更衣室というのが整備されておりますので、こちらを利用することで足りるだろうということで、このような設計にさせていただいております。

委員 今、ほとんど更衣室は使わないということですか。

事務局 はい。ということでした。

委員 ありがとうございます。

委員 保護者の中には、更衣室は人数の分でも広くしてもらいたい、写真で見て感じは狭過ぎるのではという意見もあったんですけど。

事務局 その意見も踏まえて学校さんとちょっと相談をさせていただいて、このサイズ、この場所で足りるということで確認をさせていただいております。

委員 今、ほとんどのじゃあ中学校では、更衣室はほとんど使われていないということになりますか。

事務局 そうですね。少なくとも山岡中学校においてはそのような使い方をしていてということで確認をさせていただいております。

委員 中学校はそうかもしれないです。（発言する者あり）

事務局 はい。すいません。

委員 分かりました。

事務局 すいません。

副理事長 よろしいですか。

委員 基本的に、ごめんなさい、制服で通うか、ジャージで通うか、それって決まってくるんですか。

事務局 それはまだ別の部会でこれから決めるところなので。

委員 なので、もしそこが基準になってくると、更衣室なきゃ駄目だよねみたいなふうになってくるのかなっていう。そこが決まらないと決まらないんじゃないかなと思ったんですけど。後から付け足せないじゃないですか。

事務局 そういった意味では、もし制服で通って学校で着替え、ジャージになる、ジャージで来て全員制服に着替える。そういったときに更衣室に物を置いておくのは、この既存の更衣室っていうのが使えると思うんですけど、そうじゃない着替えるっていうところになってくると、教室、既存の教室の中でどれかを更衣室にするっていう変更は十分可能です。

委員 変えるということですね。

事務局 そういった意味でも、いわゆる狭いところにぎゅっと詰め込んでしまうのでは

なく、教室棟は増築して広くゆったりとしたスペースにする。それによって既存校舎のほうの部屋が少しゆとりが出てくるので、そういったところを更衣室に変えていくってところは十分考えられることかなと思います。

副理事長 ありがとうございます。

委員 すいません、もう一点だけ最後に。申し訳ないです、長くなって。自分ちょっと前回にお話しさせていただいたと思うんですけど、教室の広さが今回67.2平米ということで、現在よりもちっと広がっているという状況なんですけれども、ここに机の配置が多分必要になってくると思うんですけども、机の大きさをどういうふうに考えて、どういうレイアウトになるかというのを一度出していただきたいなというふうに思っていますので、また機会があればぜひお願いしたいというふうに思います。

以上です。

副理事長 ありがとうございます。ぜひよろしくをお願いします。

それでは、お諮りをします。課題 No. 9、校舎の増改築に関することについて、承認される方は挙手をお願いいたします。

[賛成者挙手]

副理事長 ありがとうございます。賛成多数により承認をされました。

続いて、(3) 課題 No. 21、学校図書に関することについて、教育部会から説明をお願いいたします。

教育部会部会長 では、教育活動・学校事務部会の後藤と申します。

19ページ、20ページ、21ページのほうに、意見の状況をまとめてはありますが、図書館をどのようにイメージするかという意見を頂きました。後このような設計を踏まえまして、21ページにあります、現時点で改築の設計に反映させていく事項ということで、まず、広いスペースが必要、そして、利用しやすい環境づくり、快適な空間づくりというようなコンセプトを議題で確認しましたら、皆さん、これに賛成ということでありました。

その上で、前回の専門部会では、具体的にどのような活用をすると、ここにあるような条件が満たされていくんじゃないかということでご意見を頂きました。詳しくは事務局よりお願いいたします。

事務局 では、事務局のほうから補足をさせていただきます。よろしくをお願いいたします。21ページのところに出ている広いスペース、利用しやすい環境、そして快適な空間づくりというようなものが設計のほうに反映してほしいということで、昨年度の段階で設計のほうに部会からお願いをした中身になっております。それを踏まえて、平面図のほうの後半のほうに、今度、図書館の1、2階ですね、こういったところの拡大をされた平面図のほうが今回配付のほうをされているというふうに思いますけれども、これを基にして、部会のほうで、自分たちのお願いしたことが反映されているかどうかというようなことについての検証を部会で行いました。

その結果として出てきた意見としては、大変、自分たちの意見を取り入れていただいて、とてもいい、それ以外のプレゼンエリアであったりとか、ラウンジ

ソファであったりとか、台形のテーブル席、こういったようなアイデアも入れていただけて、とてもいい方向で設計のほうは進んでいますので、まず、室内の階段を増設するというようなことについてを中心に、基本的な設計としてはこれで進めていっていただきたい、それをこの理事会でもご承認いただいて進めていっていただきたいというようなことが、前回の部会の意見としてありました。

その先の細かなこととして、ここから先は学校図書館司書さんなどの意見も取り入れながら、さらに細かなレイアウトや配置等については検討をされていくというふうに予定をしているんですけども、今後、さらに期待することとして、先ほどご質問でありました例えば1階のところにプレゼンエリアというようなところがありますけれども、1クラス全員が集まってのオンラインでの遠隔の授業であったりとか、もしくは、子どもたちがプレゼンをクラス全体の前でするかということや教室でも、電子黒板等でやれるかもしれないんですけども、大きなところでやりたいときにやれるように、そういうスペースが欲しいというような要望がありました。

それに対して、この図面だと、机の数がやっぱり1教室分の人数ないということからすると、やはり1クラスの人数が全員入れるようなプレゼンエリアというものに、位置を変えるのか、向きを変えるのか、そこはこれから検討して欲しいんですけども、このプレゼンエリアはすごくいいアイデアなんですけれども、そういったことについては今後考えていってほしいということであったりですか、個人での学習するスペースみたいなところが今回のアイデアの中にはないので、この後、さらに中身を詰めていく段階で、そういったものをできれば盛り込んでほしいというようなご提案のほうをこの部会としてはまとめましたので、そういったものを司書部会等のほうにもこういう意見がありますということをお伝えして、そういったことも踏まえて司書さん方に今中身のさらなる検討のほうを進めてもらっているというところです。

その中で、今、2階を中心に本を置いているんですけども、2階だけで本を置いてしまうと、1階のほうの図書の利用というようなものが本当に限られるのではないかというようなことがあって、1階にも一部持っていったほうがいいのではないかというような意見がありましたので、学校の職員や司書さん方のほうで検討のほうをしていただいております。そこはまたこれから詰めていこうと思っています。今回は特に基本的な設計ですね、中階段とトイレがついた2階建ての大きなスペースの図書館というようなところで進めていっていただきたいというところのご承認を頂きたいというのが部会からの意見ということになります。ご審議よろしく願いいたします。

副理事長
委員

ありがとうございました。ご質問はございませんか。はい。

すいません、さっき聞きたかったプレゼンエリアなんですけど、自分が中学校の頃にプレゼンをする授業というのがなかったの、どういふのを子どもたちがプレゼンテーションをするっていう学習というのがあるのかなというのがちょっと分からなかったの、ご質問させていただきたいんですけど。

- 事務局 プレゼンテーション、よく我々でも今こうやってパワーポイントみたいなものを使ったりとかありますけれども、これをこれまでの中学校の授業でいうと、例えば紙に書いたりとかっていうことをしながら、紙芝居形式みたいな感じで発表するというようなことが国語の授業なんかでもありましたけれども、そういったことをもう今は1台端末を持っていますので、そういったところでパソコンでやったりということもありますし、総合的な学習の時間というような、それぞれがテーマを決めて学習をするというようなところがありますけれども、そういったものの発表のときにも、以前ですと、いわゆるB紙みたいなものに貼ってやっていたんですけども、これがこういったところでそれぞれグループごとにぱっと映して発表したりですとか、そんなことがやっぱりこれからそういったことができる子どもたちを育てていくということが大事になってくるということで、充実させたいスペースというふうに考えています。
- 委員 では、3学年ありますけれども、それぞれそのプレゼンテーションというのだけでそれは賄えるんですか。
- 事務局 各教室のほうにも小さな電子黒板というか、プロジェクターのほうがつくんですけれども、それで例えば学級での活動であったりとか、授業みたいなところはそれでやれると思うんですけども、もう少し発表をもうちょっとみんなで見たいとか、ふだんの授業ではなくって、発表そのものの部分であったりとか、大きなところに映して、より大きく見たいというようなときはここに来て使うというような使い分けですね、そういったところができるようにということで、各教室で日常的に使うことと、臨時のときにこちらに来てやるということであるので、1か所でも使用には耐え得ると思います。
- 委員 ここにも書いてあるんですが、外部講師を招いてのセミナーとかって書いてあるんですけど、何か予定があるんですか。
- 事務局 今、具体的に誰かこんな人と呼んでとか、開校して何年目の何月というようなところは特にはないんですけども、そういったことも充実させていけるということですね。今、結構、職業講話なんかでも、東京のほうに見える方とオンラインでつないで、その方の話を聞くということが今でもあるんですけども、このエリアができることによって、より大きな画面ではっきりと見ながら行うということがさらにしやすくなるのかなと思います。
- 副理事長 ほかよろしいですか。
- 委員 ちょっと一言よろしいですか。基本の設計が云々ということじゃなくて、これからの部分のところで少し考えることができるかというのは、図書館を実際にはどうやって使うんやということがある程度、学校の先生とか、それから子どもとか、そういう形の部分が想定されないと、この図書館をこうやってつくってあげたって、「使いなさいよ」という形では、いや、そんなこと言っちゃあれだけど、今の学校の図書館ってあんまり子ども行けんやん。
- それで、だから、例えば、それは何が聞きたいかというのと、それをまた検討されることになっているか。例えば、蔵書が一応幾らようけあっても駄目で、そこに恵南らしい蔵書があるかと。例えば、5地域の本当にふるさと学習をここ

やうということになるので。

部会でも話し合ったんですけど、図書館には3つぐらいの役割があって、1つはやっぱり読書センターというか、読書をするということが一番の基本という。2つ目は学習センターというか、学びの補助をしてくれる、そういう学習センターとしての図書館。それで、3つ目は情報センターということで、図書館へ行くと新しい情報があるとかいうような、その3つぐらいの役割があるということ部会で話し合ったんですけど、特に学習センターというので一番簡単なことは、先生たちが授業で図書館を使うということだと思うんですよ。なかなか行けないから、休み時間なんかには。授業のときに実際に使って、みんなが使えば、すごく有効になると思うんですよ。さっきの話で、プレゼンをやるのにやっぱり学級全員が入るというのはもう不可欠で、学級全員が入れんようなものをつくってももう意味がないなと思いますので、ぜひ、学級の全員がまとまって使えるようなものを設計の中で入れてくださるとありがたいなと思います。

副理事長 ありがとうございます。ほか。はい。

委員 保護者の方からも意見を頂いていて、建築もすごいいい建物を建てていただいて、すごいすばらしい図書館だと思うんですけど、ハード面ばかりのよさは分かるけど、もう少し中身を具体的に教えてほしいということも言われているんですね。一応、この図書館の部分というのが教育活動というところで、やっぱりどのような教育をするのか、どうやってどういう学校をつくっていくのかというところをメインにしていかないと、先ほど言ったように、どうやってそれを使うのかというところにも結びついていくので、私はアドバイザーの福地先生が入っていらっしゃるのであれば、どうやってどのような学校にしていくのかというところをもうちょっと煮詰めていただいて、それだったら私たち行きたいよねっていう方向に持って行ってほしいなというのをすごく思います。それに伴って図書館も変わってくるんじゃないかなというのを思っています。私たちは、上矢作から通うことによって1時間ぐらいバスでかかるわけですよ。そうすると、放課後、図書館を使うことってまずできなかつたりとかすると思うんですね。なので、じゃあ、「どうやってどの時間で図書館を使えるの」、「いい図書館だけど、どうやったら使えるの」というところまで考えていただけたらいいなと思います。

副理事長 何かお答えはないですか。

事務局 今のことですか。

副理事長 はい。

事務局 今はまだ検討中というか、こういう部会のアイデアが出ていますというようなところはお伝えするような段階ではないですので、今後の検討の中でそういうようなところもまた検討された内容についてはまた適宜お伝えしていこうというふうに思います。

副理事長 ありがとうございます。ほかよろしいですか。——ないようですので、お諮りをします。課題 No. 21、学校図書に関することについて、承認される方は

挙手をお願いいたします。

委員 ちなみにこれ、こうやって承認しちゃっていいんですか。今、これだけ議論が出ているんですけど、これで承認されたって……

副理事長 すいません、承認中なので、もう意見は。よろしいですか。もう一回、挙手をお願いします。

[賛成者挙手]

副理事長 ありがとうございました。課題 21、学校図書に関することについては賛成多数により承認されました。

議題に係る3つの課題事項については全て承認されましたので、この原案を今後総会に諮ることとします。

予定された議事等は終了しましたので、進行を司会に戻したいと思います。議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

事務局 ありがとうございました。

それでは、事務局により、最後ですが、事務連絡をしたいと思います。

本日、理事会にて承認された事項については、最終的に総会のほうに諮っていくこととなりますので、なるべくならばできる限り早い時期に総会のほうを開催する予定でございますので、よろしく願いをいたします。

これで本日の議事は全て終了しましたので、最後に岡田教育長より一言申し上げ、会議を閉じたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

教育長 今日はありがとうございました。各専門部会でも本当に慎重に審議していただいて、ここで提案をしていただき、またここでも様々な意見を頂いて、私も例えば言葉1つの意味をもっときちんと考えていかなければならないというようなこととかも改めて深く考えさせられました。

また、先ほど、学習センターというようなことも言われたんですけど、私たち、学校へ訪問に行くことはあるんですけど、最近、図書館を使って授業、最初ですので、図書館へ入って調べるものがたくさんある、すぐに調べに行ける、そんなことも含めて、そこでちょっと簡単な発表をするというような授業も見てきております。それで、そういうようなよい事例も交流しながら図書館、今の図書館も含めて、さらに積極的に使っていけるようなそういう働きかけもしていかなければならないのだなということを感じました。

まだまだ課題等これからもあるわけですが、各専門部会、それから幹事会、理事会、そして、最後には総会なんですけれども、そんなところで皆さんにご理解いただいて、承認いただいて、前に進んでいきたいなということを思っております。これからも本当にお世話になりますが、よろしく願いします。

事務局 皆様、ありがとうございました。これにて閉会といたしますので、皆様、お気をつけてお帰りください。どうも本日はありがとうございました。